やっぞ!! 能登町

## 令和６年能登半島地震
# つながる支援の輪

「令和６年能登半島地震」から早３カ月。最大震度６強を観測した姉妹都市「石川県能登町」では、8,500棟（非住家被害も含む）以上の建物が被害を受け、現在でも一部地域で断水が続くなど厳しい状況ではありますが、復旧・復興に向けて一歩ずつ前に進んでいます。今月号では先月号に引き続き、市の能登町支援の取り組みや市内で広がる支援の輪を紹介します。　※ 写真は現在の能登町の様子（能登町提供）

『やっぞ !! 能登町』は能登町復興のシンボルマークで、同町在住のグラフィックデザイナー池崎万優（いけざきまゆ）さんがデザイン。

能登町の伝統行事「あばれ祭」などで使われる掛け声、「わっちゃ（お前ら）やっぞ（やるぞ）」という意味の能登弁が由来で、復興への力強い想いが込められています。

## 経済団体などと合同で さまざまな支援物資を発送

市では、能登町からの要請を受けて、経済団体などと合同で計４回（３月22日現在）支援物資を発送しています。

発災直後の第１弾では飲料水やブルーシート、乾電池やカイロなどを送付。第２弾は飲料水、第３弾・第４弾では食料品や下着・靴下等の衣類などを送付しました。

また、３月28日には、市、小林商工会議所、すき商工会、野尻町商工会と合同で、介護用品などを中心とした第５弾の物資を発送予定です。

㊧支援物資を積み込んだトラック（第４弾）。運搬するトラックは宮崎県トラック協会（牧田信良会長）の協力によるもの　㊨物資の詰め込み作業。被災地の状況に応じて必要とされる物資も移り変わっており、能登町への聞き取りを行ったうえで送付する物資を決定しています

## 能登町への義援金などの状況

■市が実施する能登町へのふるさと納税の代理寄付や能登町への復興支援を目的として市へ寄せられたふるさと納税を原資に、災害支援金として能登町に送金するもの

2月20日
**3,000万円** を送金済み

3月28日
**4,284万円** を送金予定

■市役所各庁舎や各団体などが設置した募金箱に寄せられた義援金や、各団体などで集めた義援金で市を通じて能登町へ送金するもの

2月20日
**3,245,983円** を送金済み

3月21日
**4,544,001円** を送金済み

温かいご支援をありがとうございます。
いただいたご寄付は随時能登町へ送金します。



## 能登町の被害の概要 ※3月19日現在

**■発生時刻**
令和６年１月１日　16時10分頃

**■震源の規模**
マグニチュード7.6

**■震度**
震度６強

**■津波**
１日16時12分　津波警報
　　16時22分　大津波警報に切替

**■人的被害**
死者８人（うち災害関連死６人）、重症10人、軽傷25人

**■建物被害**
住家被害：全壊314棟、半壊882棟、
　　一部損壊5,042棟
非住家被害：2,326棟

**■避難者数**
最大5,481人（１月４日時点）

## 道の駅ゆ～ぱるのじりでは いち早く義援金募金箱を設置

姉妹都市能登町との絆は、旧野尻町と旧能都町による平成７年10月の姉妹都市提携までさかのぼります。

道の駅「ゆ～ぱるのじり」では、能登町と縁の深い野尻地区にあり、人も多く訪れる場所であることから、発災直後の１月２日には募金箱を設置。２月末日現在で約25万円の募金が寄せられました。

募金箱の設置は当分の間続けられる予定で、寄せられた募金は市を通じて能登町に送られます。

㊧館内の「産直・物販店」・「レストラン こばやし 味彩」・「こばやしのじりの湯」に募金箱を設置　㊨「産直・物販店」で販売中の能登町の特産品。酒蔵が被害を受けたため日本酒の入荷時期は未定ですが、特産品の「いしり醤油（魚醤）」、「いしりポン酢」は現在も販売中です

## 自治会加入者からの義援金を 区長会がとりまとめて寄付

２月20日、小林市区長会から市長に、義援金約１２０万円の目録が手渡されました。

義援金は、被災した能登町を支援しようと、区長会が自治会加入者からの寄付を取りまとめたもの。

橋ノ口孝一（はしのくちこういち）会長は「区長会でもこれまで能登町と交流を続けてきた。被災した方の困りごとが少しでも解決するよう、有効に使っていただけたら」と話していました。

寄せられた義援金は、市を通じて能登町に送られます。

## 小林小学校の児童が 新聞投書欄で被災地へメッセージ

「みなさんの笑顔や元の生活がもどることを願っています」。「地震の被害に負けずにがんばってください」。

小林小の児童による、さまざまなイラストや被災地を想う温かい言葉が書かれた手書きのメッセージが、２月22日付けの石川県の地元紙「北國新聞」で紹介されました。

発災直後から、地震に関する記事やニュースを児童に紹介していた同校。市内小・中学校で行われた「おこづかい募金」以外にもできることはないかと吉井秀一（よしいしゅういち）校長が呼びかけたところ、児童50人からメッセージが集まりました。

より多くの人に読んで欲しいとの想いから、石川県で広く読まれている地方紙の投書欄への投稿という形でメッセージを送付。記事として取り組みが紹介されたほか、ウェブサイト（北國新聞デジタル）に全50枚のメッセージが紹介されています。

※QRコードから、「北國新聞デジタル」に掲載された児童のメッセージを読むことができます